

<研究成果の紹介>

みつ症が発生しないニホンナシ「福水」

農業研究部園芸グループ

1. 成果の内容

「福水」は三重県津市の藤井崇明氏が「筑水」の実生から育成し、2001年11月22日に品種登録されました。品種特性については短報No.54、贈答用としての評価についてはNo.56において紹介しましたが、今回、収量性とみつ症の発生状況について明らかになりましたので、その概要を紹介します。

県内ナシ産地5地域（四日市市、久居市、松阪市、小俣町、上野市）において、2001年4月に「豊水」に「福水」を高接ぎし、「豊水」を対照品種として、調査を行いました。

(1) 収量性について

高接ぎ2年目と3年目の調査の結果、「豊水」よりも果実がやや大きく、収量が多いことがわかりました。(表)。腋花芽率も「豊水」と同程度に高いので、花芽の確保は容易です。

(2) みつ症について

2003年には「豊水」では平均30%以上の果実でみつ症が発生しましたが、「福水」では5地域いずれの地域でも全く発生がありませんでした(表)。育成者ほ場と農業研究部ほ場においても過去5年間、みつ症の発生は全くありません。

2. 技術の適用効果と適用範囲

本県での栽培適地は、県内全域と考えられますが、「豊水」のみつ症が問題となっている地域での導入が有効だと考えられます。

3. 普及、利用上の留意点

「幸水」との交配親和性が低いので、受粉樹には「豊水」や「長十郎」等を用いてください。

収穫時期が「豊水」より遅くなる傾向にありますので、追肥時期等栽培管理に注意してください。

(前園芸グループ 輪田健二)

表 「福水」収量性等

品種名	年	1果平均重 (g)	推定収量 (t/10a)	みつ症発生果率 (%)	腋花芽率 (%)
福 水	2002	460	2.8	0.0	63.9
	2003	445	3.9	0.0	20.3
	平均	453	3.3	0.0	42.1
豊 水	2002	449	2.8	0.0	57.1
	2003	428	3.4	31.1	22.5
	平均	439	3.1	15.6	39.8



写真1 「福水」原木での着果状況

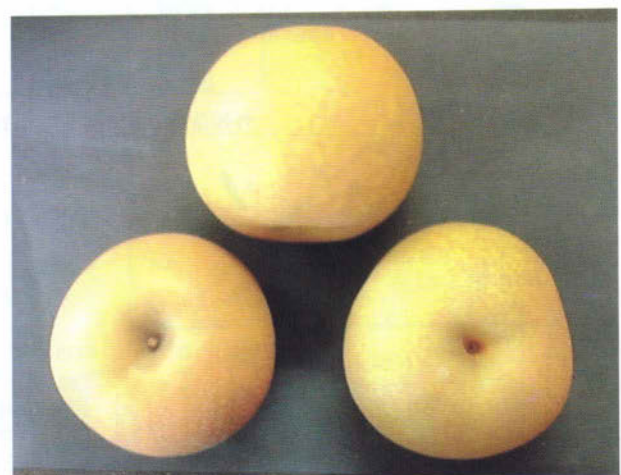


写真2 「福水」果実